

まとめ

瀬戸内圏研究センター ゼネラルマネージャー 本城凡夫

瀬戸芸のことに关しまして、前々から室井先生、稲田先生が研究をなさってきました。そして特に室井先生の島ごとの瀬戸芸に対する島民の意見調査を整理してみますと、意見は島民個々人で異なっていて、反対意見の多い島もあったということです。しかし、島の財政を扱う方にとってみれば、瀬戸芸はすごく魅力のあるものだという話を聞いたことがあります。稲田先生もそのようなことに注意して、瀬戸芸を見ていかなければいけないとのことでした。

しかし、金先生の今回の研究では、瀬戸芸の効果は長い目で見るとかなり上がってきていて、瀬戸芸が開催されない時期でも、香川県の陸部に観光客の流れを呼んでいて、陸部の訪問場所も拡大してきているということでした。島民への最近の意見を聞く必要はありますけれど、瀬戸芸に対するこれまでの考えを見直さなければならない部分もあるのかなと思いました。多くの観光客が香川県や四国地域を訪れ易いように、金先生にはホテルの数、場所、金額などの問題も含めて、これからも研究していただければありがたいです。

府中湖全体の富栄養化を抑えることはなかなか難しいのですが、湖で育った植物をバイオマス化して行くということには期待が持てますし、畜産系からの栄養流入の源を抑えることが必須であると感じました。魚の骨から HAP が作られるようになって、いくつかの特許が取得され、今後も申請されるようになってきました。これらは大学特許として取得されていますから、大学にかなりの貢献をしていると思います。一方で、ノリスカートやアサリも地道な研究が重ねられており、成果が芽生え始めていますので、次の機会には発表させていただきたいと思います。アサリの場合、資源減少原因の候補をひとつずつ削って行く方向で研究が続いています。多田先生と一見先生には研究の進捗をよろしく願います。

それから、原先生、香川県が周産期における死亡率最小の世界一を実現されて、本当にありがとうございます。原先生が胎児モニタリングシステムを確立されたことが大きいと思います。そしてこのシステムを外国に展開されようとしておられ非常に楽しみにしています。K-MIX を開発して、最近では K-MIX+ で大型病院と診療所との連携が取れるようになったことも先生の功績なのですが、離島でも妊産婦さんが使えるようになればありがたいと思います。

一井先生の方からは離島過疎化など、今後の問題点について提案をいただきました。先ほども申しましたが稲田先生がおられれば、違った論議もできたのだらうと思いますが、島の過疎化を止めるのは難しいという話があります。稲田先生は U ターンも難しい、I ターンも難しい。島の文化伝統を守ることも大事で、伝統文化の祭りの時に若者に来てもらえるような催しができないかという考えもあります。そこにはたくさんの方々が来て、老

人が昔を懐かしんでいる。そういう島があります。そして伝統文化は一時的に守れる。あわよくば、島になじんだ若者達が島に住み着いてくれるようなことが、もしもあれば、言うことはないのですが。

一次産業、医療も含めて、離島には困難な問題がたくさんあります。一井先生の提案に関しては、多田先生、金先生、原先生、一体になりながら協力、連携をとって進めていただければありがたいと思います。また、コメントをいただきました2人の先生、ありがとうございました。コメントの内容を十分に吟味して、センターの発展につなげて行きたいと思います。

我々のセンターは地域の課題を掘り起こして、課題を研究し、研究した成果を社会に還元する使命を設立当初から掲げて進めております。一方、香川大学では中期目標に沿いながら、年度ごとに研究の進捗具合を確認しております。私はその中期目標にきちんと沿っているかどうかとチェックしておりますし、センターの成果が社会に還元されて行き始めているという自信を持っております。瀬戸内圏研究センターは専門分野の異なる横断型の教員の集合組織で、貴重な存在であります。先生達の連携研究が発展すれば必ずや大きな成果が生まれてくると信じております。皆様も私達センターを温かい目で見守っていただければ、ありがたく存じます。本日はありがとうございました。